

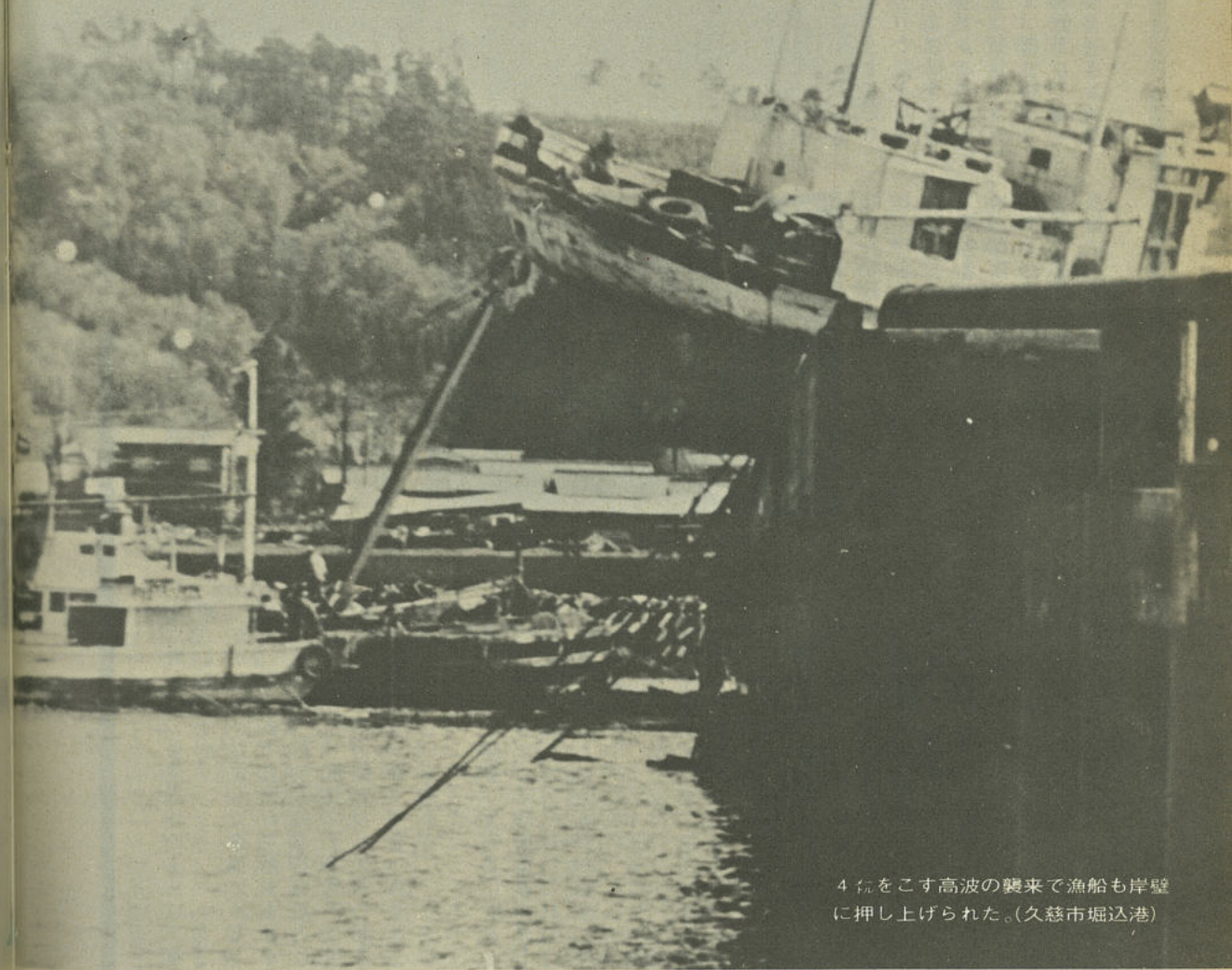
# 激震岩手を襲う

—'68十勝沖地震のツメ跡—



湾内におし流された原木の衝撃が漁船や養殖施設の被害を倍加した。(宮古市金浜)

20日、県災害対策本部のまとめた岩手県の被害総額は31億1千300万円にのぼった。このうちとくに水産関係の被害が大きく、22億円をこし、市町村別には、山田町の4億円をトップに、宮古、釜石、大船渡、陸前高田、三陸町、大槌町の被害がとび抜けて大きかった。



4億をこす高波の襲来で漁船も岸壁に押し上げられた。(久慈市堀込港)



山田湾付定置網が流され、養殖イカダが壊れて被害が最も大きかった。



津波とともに魚箱や網、トラフ缶まきなどが海に流れて、市街地が壊滅した。



5月16日午前9時50分ごろ、北海道から東北地方にわたって強烈な地震にみまわれ、県民を恐怖のどん底におとし入れた。「1968年十勝沖地震」と名づけられたこの地震は、マグニチュード7.8と、かつての関東大震災に匹敵するほど規模の大きなもので、津波を併発して沿岸を荒らしまわり、夜になっても、新潟震災なみのマグニチュード7.5という余震がつづいたりして、まんじりともしない夜をすごした。

この地震と津波で、とくに三陸沿岸一帯では、漁船や定置網、ノリ・カキ・ワカメ養殖施設などに手ひどい痛手をうけた。内陸部でも東北本線や国道の欠かい個所が続出、通信網も途絶し、混乱状態がつづいた。